

多摩消防団だより

第10号
発行
平成24年1月
多摩消防団印刷所
吉部印刷所
日部印刷所



川崎市の代表会場として、多摩区消防出初式が、一月八日に開催されました。

「新年を迎えて」多摩消防団長 松澤喜義

平成二十四年、謹んでお喜び申し上げます。本年も多摩区の防火防災と、安心して住みよい地域を目指し、多摩消防団は訓練を重ねて頑張ります。

昨年は、若芽が始める三月十一日に東日本大震災が発生し、大変な年でありました。

我々消防団でも、新消防車両四台の更新、防災・水防訓練、消防大会、市内初の消防団機動部隊の発隊、川崎市の代表会場として多摩区消防出初式等々がございました。各町会・自治会をはじめ関係団体の皆様のご理解・ご協力をいただき、本当にありがとうございました。本年も多摩消防署と両輪のご活動して参ります。

今年一年が良い年でありますよう、皆様の益々のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます、挨拶といたします。

「年頭の挨拶」 多摩消防署長 石井敏幸

消防団員及びご家族の皆様におかれましては、ご健勝で輝かしい新年をお迎えになられていることと存じます。

消防団員の皆様には、平素より多摩区の安全と安心の確保にご尽力され、感謝と敬意を表する次第でございます。

また、東日本大震災でご活躍されました各地の消防団員の皆様の偉業に対しまして、敬意を表するとともに、犠牲になられました御霊のご冥福を衷心よりご祈念申し上げます。

本年も、多摩区が平和な一年となりますことと、併せて、消防団員及びご家族の皆様のご活躍とご健勝をご祈念し、年頭の挨拶といたします。

平成二十四年 多摩区消防出初式受賞者（敬称略）

市長表彰

退職消防団員功労者

元多摩消防団 団長 松澤 忠志

永年勤続功労消防団員 団員 清宮 勝明

稲田分団 団員 清宮 勝明

多摩消防団長表彰

勤務成績優秀消防団員

生田分団 部長 山田浩治郎

稲田分団 部長 安藤 聡

勤務成績優良消防団員

生田分団 東生田班 団員 岩崎 重雄

中央生田班 団員 福岡 成浩

長沢班 団員 関井 賢二

大作班 団員 安藤 修

菅班 団員 安藤 修

中野島班 団員 高橋 裕成

登戸班 団員 伊藤 正則

宿河原・堰班 団員 木浪 哲也

長尾班 団員 勝又 正明

退職消防団員

元多摩消防団 団長 松澤 忠志

元生田分団 部長 小島 哲也

元生田分団 部長 藤井 正人

多摩防火協会会長表彰

消防功労部隊

生田分団 登長 戸沢班

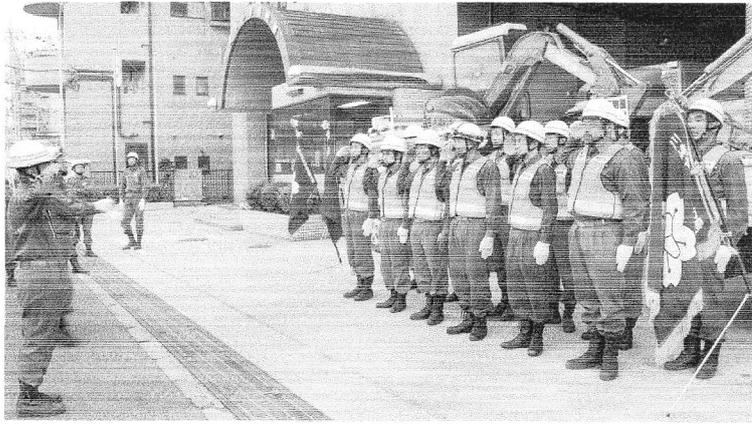
稲田分団

多摩消防団機動部隊 発隊

平成二十三年十一月十八日、多摩消防団は、東日本大震災において指摘された、消防団活動を遂行する上での不備を改善する為に「多摩消防団機動部隊」を発足しました。この部隊は井田副団長を統括隊長に、土木・建築関連で、重機操作の資格を持つ十八名の団員により構成されています。

震災被災地の映像で、道路が瓦礫などでふさがれているのを見て、任務を遂行する上で、現地にとどり着けない不安や辛さを感じた団員が多くいました。

多摩区においても、建物の崩壊の他に、多摩川からの津波や上流のダムの決壊など、色々な状況を想定する必要があると考え、多摩消防団と多摩消防署で協議を重ねて参りました。



消防署長及び多摩消防団長からの出動要請が発動された場合、瓦礫などを撤去して緊急車両の交通路を確保する事を目的とし、活動をいたします。また、警察署との連携も視野に入れ、被害の最小限化を目指して、日々鍛錬して参ります。



初代隊長の井田哲芳副団長に、松澤団長より辞令が渡された。

設置しましたか？ 住宅用火災警報器

消防法及び川崎市火災予防条例により、平成二十三年六月一日から、全ての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務付けられ、既に設置しているご家庭に設置された住宅火災により亡くなる人数は、約六割が六十五歳以上の高齢者で、その原因は主に逃げ遅れによるものです。

住宅用火災警報器は、熱や煙を感知すると警報音や光を点滅させて、火災の発生を知らせるもので、住宅用火災警報器を設置した場合は、設置しない場合に比べて、火災による死者数、焼損面積、被害額が、おおむね半減するとの統計結果が出ています。

大切な家族を守るためにも、住宅用火災警報器を設置しましょう。

生田分団 団旗祭

六月二十六日、枳形中学校の校庭にて、生田分団団旗祭が開催されました。

各町会関係者や地域の皆様をお招きし、新入団員を加えた体制のお披露目として、全体による小隊訓練と、各班による小型ポンプ操法をみていただきました。

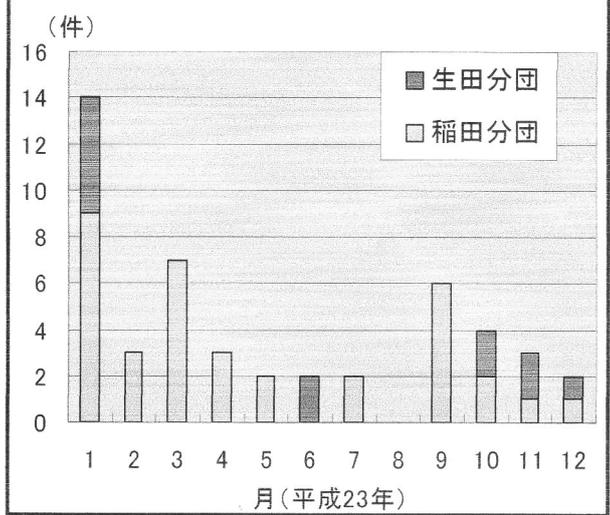
より一層の安全と、防災の努力をすることを団旗に誓うことで、新しいスタートをきりました。

稲田分団 操法大会

七月三十一日、宮前区犬蔵の消防総合訓練場において、稲田分団操法大会が開催されました。当日は周囲の視線を受けて演技する緊張の中、各チームとも日頃の訓練の成果を十分に発揮する事が出来ました。

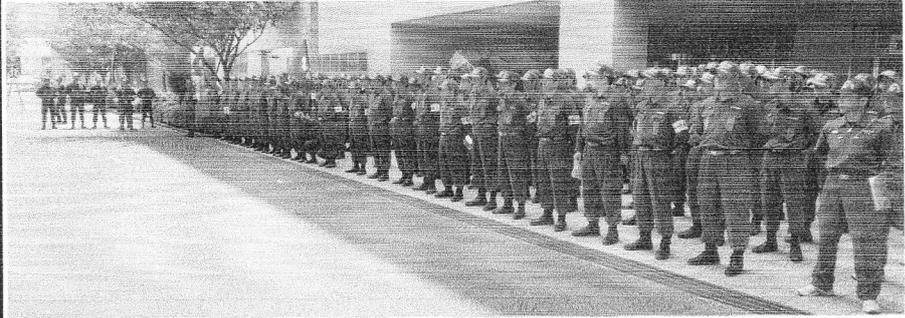
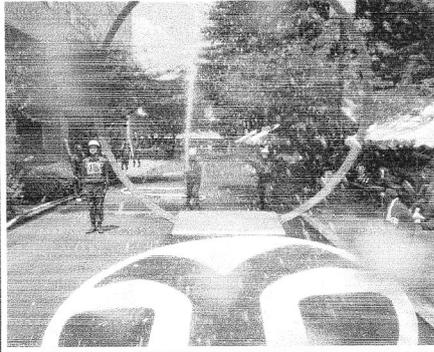
また、小型ポンプ操法の他に、各班の小隊訓練も披露されました。一週間後に多摩大会を控え、当日の採点担当者も兼ねて、各採点担当者や分団部長とによる模擬採点を行いました。終了後に渡された採点表を見て、各チームは自分達の操法演技を振り返り、さらなる操法技術の向上を誓いました。

多摩消防団の火災出場件数



多摩消防団 消防大会

八月七日、明治大学生田キャンパス内において、多摩消防団消防大会が行われました。稲田分団5班、生田分団4班の全9班が小型ポンプ操法の競技を行い、中野島班が優勝、登戸班が準優勝、宿河原・堰班が第三位となりました。



小型ポンプ操法とは：指揮者の指示により、ホース延長・ポンプ操作を行い、火点を倒すまでのタイム及び行動を審査する競技です。

優勝 中野島班 班長 石井 元康
 今年度優勝することが出来たのは、町会をはじめ、中野島班の先輩方の励みやご支援を頂いた賜物だと思えます。そして、補欠も含めた選手の日々の努力、指導する班員の熱意、サポートする班員の想い、それらが合わさり、班全体の士気が大会に向け、一つの絆となり、十六日間の厳しい訓練を乗り越えられたのだと思えます。そして、班員の奥様やご家族の影の支えがあり、訓練に集中出来たと思えます。その中で優勝出来たことを誇りに思い、そして、班員全員に感謝しています。

個人最優秀賞

- 指揮者 岸 隆広 (中央生田班)
- 一番員 山田 真也 (東生田班)
- 二番員 吉澤 孝太郎 (中野島班)
- 三番員 井上 貴智 (登戸班)

指揮者 生田分団 中央生田班 岸 隆広

今大会に於いて、最優秀賞に選ばれた事は、大変名誉であり、一選手として誠に光栄に思っています。

しかし、指揮者として、選手達の力を十分に発揮させる事が出来なかつた事、班としての結果をポジシヨンの難しさ、厳しさも痛感しました。

この経験を今後の消防活動に役立てていきたく思います。

連夜の訓練に参加してくださった班員達、大会当日に応援に来て頂いた地域、O Bの方々に感謝すると共に、深くお礼申し上げます。



一番員 生田分団 東生田班 山田 真也

約三ヶ月に及ぶ訓練では、すべての動作や用語が初めての事で戸惑いしましたが、先輩方には丁寧な指導を受けて頂きました。変更点などは十分に練習し直して、自宅では小型ポンプ操法のD V Dを繰り返し見て、イメージトレーニングをしました。消防大会は夜間の訓練とは違い、日中の明るさや周囲の視線を受けて大変光栄です。これからも消防団の一員として頑張りたいと思います。

二番員 稲田分団 中野島班 吉澤 孝太郎

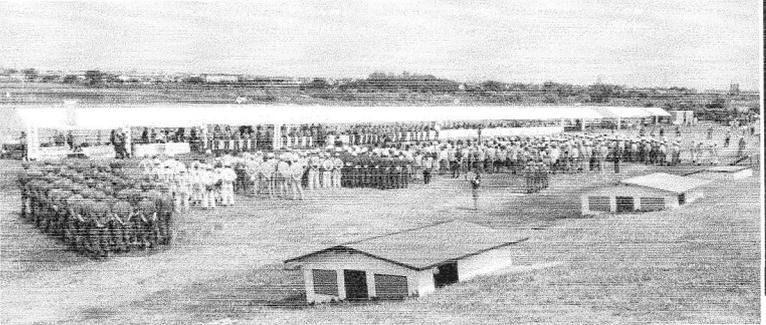
二番員として三度目の消防大会出場となり、過去の優勝を逃した悔しさをぶつけるつもりで訓練に励んできました。吸管を伸ばす動作から防火水槽への投入の流れを三番員と何度も練習し、その後のロープの木の扱い、鳶び口を持つての走り出しなど、指導員のアドバイスのもと徹底的に取り組みました。念願の優勝と個人優秀賞をいただき、応援してくださったみなさんに良い報告ができたことを誇りに思います。

三番員 稲田分団 登戸班 井上 貴智

最優秀三番員を頂けた事を大変嬉しく思います。先輩方の指導の元、先輩方を信じて六月中旬からの訓練に夢中になった結果だと思えます。

二番員との阿吽の呼吸、可搬の送水圧の調整、自分のモチベーション、なおかつスピードと、トコトンやり込みました。終わってみると達成感で充実しています。

川崎市総合防災訓練



三月十一日に発生した東日本大震災の教訓をふまえ、八月二十八日(日)に「備えよう力。」を合言葉に、川崎市総合防災訓練が実施されました。二ヶ領せせらぎ館付近河川敷と稲田中学校を会場にして、区関係各局と共に消防団員約九十名が参加しました。両会場ではバケツリレーによる初期消火活動や、車両撤去による緊急交通網の確保や、ライフラインの復旧訓練などの消防団員による放水が行われました。

